

第 63 回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 銀賞

白百合学園中学校 2 年

佐藤 優羽乃

課題①

本年は SDGs の中間年。2030 年までに 17 の国際目標から成る SDGs を全て達成するために、日本ができることは何か。

「海の砂漠化」を知っていますか。私は新聞記事で知りましたが、「砂漠化」が陸上だけの現象ではないのだと驚き、海に囲まれている日本にとって早急に解決すべき問題だと思いました。

この「海の砂漠化」は磯焼けといって、海藻の群落、藻場が著しく減少し、海藻が育ちにくくなる現象です。海藻は、海の生物にとって餌や住処、産卵場所など切っても切り離せないものです。

また、海藻は場所としての役割だけでなく、二酸化炭素を吸収する役割も持っています。海藻が取り込んだ二酸化炭素のことをブルーカーボン、それに対して陸上の植物が取り込んだものをグリーンカーボンと言います。ブルーカーボン生態系における二酸化炭素の吸収能力はとても高く、地球上の生物が大気中に排出する二酸化炭素の約 30%を吸収していると考えられています。これは、グリーンカーボン生態系の吸収能力の約 12%をはるかに上回ります。さらに、ブルーカーボンは海底に長期間貯留され、大気中に二酸化炭素を再放出しません。海底の泥は無酸素状態で、バクテリアによる分解が行われないからです。そのため、ブルーカーボンの働きはカーボンリサイクルの中でネガティブ・ミッション、つまり、ゼロではなくマイナスの排出、と位置づけられています。

これらのことからわかるように、海藻は海の豊かさを守るのにも、気候変動の対策にもかけがえのないものなのです。これは SDGs の目標の 14 番、15 番にあたります。国際的な組織、持続可能なソリューション・ネットワークの報告によると、項目別に見た日本の SDGs 達成度において、この二つは四段階の評価の内、一番低い評価を受けていました。そこで、今回は磯焼けを通し、この二つの目標を達成するための方法について説明します。

磯焼けの対策には大きく分けて2つあります。

一つ目に、磯焼けの原因であるウニを減らすことです。近年、温暖化による水温上昇でウニが増えました。ウニは海藻を餌とするので、ウニが繁殖しすぎると海藻が減ってしまいます。しかも、磯焼けの地域で育ったウニは身がやせていて食用にならず、漁業者からは敬遠されます。するとウニが程よく間引きされなくなり、さらに増えるという悪循環に陥ります。

そこで考えられたのが、やせたウニを養殖し、太らせて売る、というものです。驚くことに、ウニはキャベツやタケノコ、クローバーなどの野菜や植物も食べるそうです。そこで、廃棄野菜を餌に使い、育てているそうです。他にも、毒ウニとして知られ、えぐみが強くて食用にならないガンガゼウニも磯焼けの原因の一つです。ガンガゼに柑橘系の果物の皮を含んだ飼料を与えて育てると、えぐみが消えて食用になり、実際、販売されています。私はこれを聞いて、フルーツ魚のようなユニークな発想に驚

きました。駆除のために潰されてしまうガンガゼも少なくなかったそうなので、この方法は興味深いと思いました。

次に、海藻を増やす方法です。ロープを海底近くに張れば、勝手に海藻が生えてきてくれます。ロープは価格も安く、設置や撤去も簡単です。また、ロープを自然素材にすれば、もし外れてもゴミになりません。

こうして藻場が元に戻れば、海藻を食べるサザエやアワビなども増え、遠くに探しに行かなくて良い分、燃油費も節約できます。当然、その分の二酸化炭素も排出されないので、更に環境に良いといえます。

日本ができることは、目に見えない海底の問題について理解することです。そして、海を豊かにする活動が評価され、継続できるシステムが構築できるように発展させることだと思います。